

3つ論点と復興に向けたビジョンへ

短期と長期

緊急対応、応急復旧、本復旧・復興

時間スケールを意識した対応、ロードマップづくり

ハードとソフト面

耐震化、維持管理、情報・リスク管理

予防対策、減災・適応策、支援・連携体制

広域的・複合的な災害への対応

ネットワーク、データベース、リスク評価

想定外からの脱却、災害リスクの定量化

情報とネットワーク

<緊急対応、応急復旧>

<水道事業体>

衛星電話、停電時の通信手段

復旧対応技能者育成、確保

- 正しい情報を入手、情報の共有
- ネットワークによる人材や物資供給、燃料確保
- 総括と現場のリーダーシップ 被害実態把握力
- 水道の広域化でネットワークの充実
- 危機管理体制と通信情報ネットワークの充実

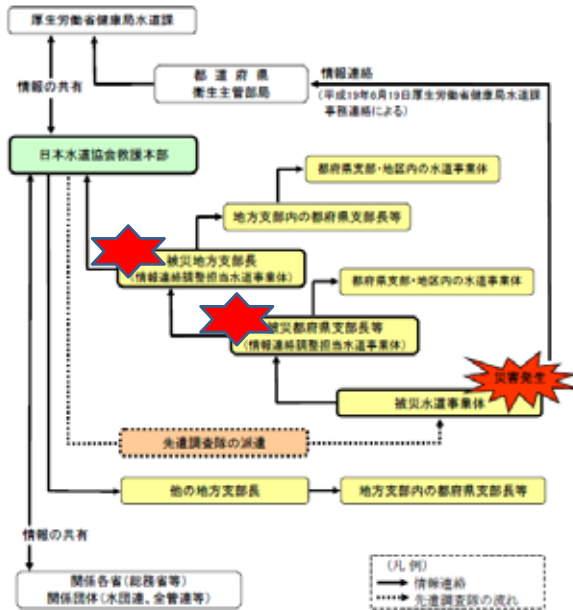
<水需要者へ>

応急給水情報の提供の在り方

- 緊急時の情報提供の改善 緊急時の生活用水としての水質
- 普段からの防災情報共有(緊急時の自助促進)
- リスクコミュニケーション力のアップ 放射性物質への対応

地震等緊急時対応の手引き

平成 20 年12 月16 日 日本水道協会 震災対応等特別調査委員会



国、都道府県、市町村、水道事業体 第三者委託先

水道協会 救援本部 県支部 地方支部

- 情報連絡
- 情報の共有
- 役割分担

都市間協定 姉妹都市 関連団体 企業

改訂された手引きや各事業体の危機管理マニュアル整備により、迅速な対応が取られたものと推察されるが、さらなる見直しも求められます。

耐震化と情報管理

<ハード対策>

- 複数水源、ループ・ネットワーク化(安心給水指数?)
- 基幹管路の耐震化推進(耐震化率) 被災時の記録力、データ集約力 GPSデジカメ、被害調査専用端末
- 現状耐震の診断力、データベースづくり

<ソフト対策>

瓦礫、配水支線とバルブ位置

- 水道管路台帳の電子化 耐震化の住民への見える化
- 水道施設の情報管理システムの導入義務 津波被災地の復興のために
- リスク洗い出し、リスクの情報化
- リスク分析、対策評価、地震・津波被害想定マップ

復興に向けたビジョン

< 広域的・複合的な災害への対応: 長期的な復興 >

- 水道広域化や複数水源確保 簡易水道への対応
水量、水質、水圧(位置、ポンプ)
- 自然流下と低炭素化社会への貢献へ
- 先見力のある水道力アップ 施設: スtockマネジメント
資産: アセットマネジメント
- 上下水道の連携力アップ

単なる更新、再構築、復旧だけではなく、
復「新」であり、復「創」、「創新」の概念も
まちづくりと水道の復興ビジョンとの整合性

強い意志と情熱を持ち、一丸となって、
強くしなやかな日本の水道へ